

第3回草津市総合計画審議会 会議録

■日時：

令和元年10月23日（水）14時00分～16時00分

◆場所：

滋賀県南部合同庁舎 別館 3階 大会議室

■出席委員：

赤星委員、角谷委員、北村委員、喜田委員、木村委員、肥塚委員、小寺委員、田中委員、塚口委員、中嶋委員、中村委員、南(弘蔵)委員、宮城委員、宮下委員、森川委員、森田委員、森本委員、谷地田委員、山口委員

■欠席委員：

安里委員、井上委員、上野委員、宇野委員、清水委員、土山委員、三浦委員、南(英三)委員、山下委員

■事務局：

総合政策部 岡野部長、金森副部長
企画調整課 松浦課長、小川課長補佐、村上副係長、力石主査、小林主任

■傍聴者：

なし

1. 開会

- 開会にあたって、岡野総合政策部長より挨拶

- 事務局

草津市総合計画審議会設置条例施行規則第5条第2項に基づき、委員の半数以上の出席という要件を満たしており審議会が成立していることを報告。

委嘱替があった委員を紹介。

2. 審議

第6次草津市総合計画 基本構想について

(1) 社会情勢の変化について

- 事務局

<参考資料1に基づき、前回審議会において後日回答としたものの回答>

<資料1について説明>

- 委員

時代の潮流について、現行計画は「時代の潮流」「国・県の動向」「主要な課題」の3つに分かれていた。第6次ではひとまとめにしているが、社会情勢の変化と分けて記載すべきではないか。課題の整理なくして次の計画はない、課題をどう解決していくのか。

●事務局

他自治体の総合計画なども参考にしながら、国と草津市の状況や課題が並列に記載されている方が、比較等もできてわかりやすいことから、「社会情勢の変化について」としてまとめた。課題については、基本計画のなかで「現況」と「課題」を記載する予定である。

●委員

Society5.0について市は具体的にどうするのか、またマイナンバーとの違いは。

●事務局

AI やロボティクスによる効率化などを検討している。

●会長

個人情報保護は大切な観点ではあるが、マイナンバーは国が方針を定め実施する制度であり、市の基本構想にはそぐわないと思われる。

●委員

全体を通して、漠然とした記載である項目と具体的な記載である項目とがある。例えば、「生涯活躍できる人づくりに向けて」ではICT教育といった具体的な手法が書かれているが、「持続可能な都市構造の実現に向けて」では「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進める必要があると書かれているだけで、具体的な手法が書かれておらず、すべての項目で具体的な手法を記載できないか。

●事務局

具体的な施策を既に展開している項目と検討中である項目とで書きぶりが異なってしまうため、難しいと思われるが検討する。分かりにくい箇所は、用語集に記載する。

●委員

コンパクトシティ・プラス・ネットワークについて、草津市が目指している方向性は何か。学区によっても人口構成が大きく異なっている実感があり、画一的な計画では課題解決は難しいのではないか。

●委員

コンパクトシティというと大きなものを小さくすると考えがちだが、草津市では地域再生計画も一体的に策定しており、中心部も郊外部も住みやすくして、これをネットワーク化する考え方であることが特徴である。

●会長

国が示す書きぶりに引っ張られている印象を受けるため、草津市の取組を追記した方が良いかと思われる。

●委員

YMIT アリーナを保育所の運動会で使用を検討していたところ予約が取れなかった。市民のための施設は市民が使用しやすいような制度にしてほしい。

●会長

P. 14 に関わることであり、基本計画の中で具体的に検討されたい。

●委員

中小企業の悩みである後継者不足や産業振興の視点も検討、強調してほしい。

●委員

最近の災害では近所とのつながりが薄く命を落としているように見受けられる。「共助」の視点が地域に少なくなっている。

●事務局

重要な視点であり、具体的な記載は今後検討していく。

●会長

P16 に記載されるべき内容である。また、「共助」ではなく「互助」ではないか。

●事務局

確認する。

●委員

「地域コミュニティの拡充に向けて」について、人とのつながりを再生していこうというの分かるが、中間支援組織は人づくりや防災にも関わっておられるため、当該分野の中だけで言及されていることに違和感がある。

●事務局

すべての分野にまたがるという認識であったが、基本計画の中では、より具体的で誤解を招かないような記載を検討する。

●委員

現状と取組を数値化したら進捗管理がしやすいのではないか。また、それぞれの施策がSDG s の1~17 の目標のどれに当たるかを記載するなど、SDG s をテーマ出しするだけでなく、意識を高める工夫をしてはどうか。

●事務局

現行の基本計画でも目標値と実績値を掲げて進捗管理を図っており、次期計画でも継続する予定である。また、SDG s の記載の仕方は基本計画策定の中でも検討する。

●委員

「健康」に関して「健康寿命の延伸などの取組」としか記載されておらず少ないように感じる。

●事務局

具体的な取組については、基本計画の中で記載する。

●委員

市の「強み」とは何かわからないため具体的に記載してはどうか。

●事務局

「強み」については補足の必要性は感じており、検討する。

●委員

現在すでに、まちづくり協議会の会員の流出が深刻であり、強制的に入会いただくなど極端な施策や市の協力がないと地域コミュニティの拡充は難しい。

●委員

Society5.0 だけ分野が狭く違和感がある。「先端技術の活用」など表現を工夫してはどうか。

●事務局

記載方法について検討する。

●会長

SDGs は広範にわたる項目であり、最後に記載した方が良いと思われるため、Society5.0 と順序を逆にした方が良い。また、自治体経営という文言について、現行の基本計画では「地域経営」という言葉が使われており、違いをはっきりさせた方が良い。また、草津市は全国の自治体に比べて財政状況はさほど悪くなく、対比して書くに当たって現在の書きぶりでは違和感がある。

(2) 第6次草津市総合計画 基本構想前段部分(案)について

●事務局

<資料2について説明>

●委員

中堅職員の意見が市民とおなじ感覚であることに安心した。本市の「強み」とはどのようなことを考えているのか、また過去の総合計画はハード、第6次総合計画は人とのつながりであるソフト面を強調するビジョンであるという認識でいいか。

●事務局

本市の「強み」は地域特性を生かした取組を継続していくことで生まれるものと考えている。また、第6次総合計画の計画期間中に本市が人口減少局面を迎えることを視野に入れ、委員の御見込のとおり、つながりをテーマとすることを考えている。

●委員

本市の強みを伸ばすだけでなく弱みを補完する必要があるのではないか。

●事務局

弱みについても取組を進める必要があると考えている。

●委員

視点3で「ネットワーク性の高いさらに暮らしやすいまちづくり」とあるが、地域別懇談会では、都市基盤整備に関する意見が多いように見える。

●事務局

地域別懇談会の進めたいこととして挙げた意見として、交通関係があり、ネットワークとはそれも含めて表現している。議会からも表現について指摘があるため検討する。

●委員

総合計画のあゆみを見ると、活力に関する表現が少なくなってきた。「輝く」「さらに発展」という言葉も入れた方がいいのでは。

●事務局

成果を挙げている取組は継続し、必要なところは挑戦していく必要があると考えている。行政としてサービスプロバイダからプラットフォームビルダーとなり、ソフト面のケアも含め進めていく必要があると考えている。

●委員

視点1では、「強み」を「よさ」と表現してはどうか。また、視点3を「豊かなネットワーク」に修正するなどプラスイメージのものを充実させる記載をしていただきたい。

●委員

収入の確保、職住近接、産業振興の取組にも力を入れていくことを重ねてお願いしたい。

●委員

働き方改革の影響で個人ビジネスなどの副業をされる方が増えているなど、産業構造の変化も起きつつあると感じる。

●委員

京都市が実施している地場産業の後継者不足に対する取組など他市の好事例も情報収集しながら検討いただきたい。

●会長

「強み」「ネットワーク性」の記載方法を変えるよう検討いただきたい。また、将来ビジョンでは、誇り・愛着が醸成されつつあることを盛り込めるよう検討いただきたい。

3. 閉会

●事務局

次回の委員会の日程は12月18日を予定、あらためてご連絡させていただく。

●閉会にあたって、金森総合政策副部長より挨拶